

第一部：

まず第一部としまして、2024年12月期の第2四半期決算の説明をさせていただきます。

目次		人と科学のステキな未来へ コスモ・バイオ株式会社
1. 会社概要		
• 会社概要	p.3	
2. 第2四半期業績		
• 連結業績ハイライト	p.7	
• 連結損益計算書	p.8	
• 連結営業利益の増減分析	p.9	
• 連結貸借対照表	p.10	
• 連結キャッシュ・フロー計算書	p.11	
3. 通期業績・配当予想 3ヶ年計画		
• 2024年度上期事業環境	p.13	
• 通期業績見通し	p.17	
• 配当について	p.18	
• 3ヶ年計画	p.19	
• 3ヶ年計画の進捗状況	p.20	
参考情報		
• 連結経営指標等推移	p.22	
• 事業概要	p.23	
• SDGsへの取り組み例	p.33	
• 株価推移	p.34	

第一部でお話しする内容はここに書いてあるとおりで、最初に会社の概要を説明しまして、第2四半期の業績、その後、通期の業績と配当予想、そして3ヶ年計画の進捗などについてご説明いたします。

会社概要		人と科学のステキな未来へ コスモ・バイオ株式会社
社名：	コスモ・バイオ株式会社	
本社所在地：	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者：	代表取締役社長 柴山 法彦	
設立：	1983年8月25日	
資本金：	918百万円	
事業内容：	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の仕入（一部自社製造）及び国内・海外販売	
従業員数：	連結：169名 個別：135名（2024年6月30日時点）	
上場市場：	東証スタンダード（3386）	
連結子会社：	ビーエム機器株式会社 COSMO BIO USA, INC.	
非連結子会社：	株式会社プロテインテック・ジャパン	

まず最初に、会社の概要ですが、コスモ・バイオ株式会社は江東区の東陽町にございます。代表は私、柴山が今年月から代表になっております。設立が1983年で、昨年40周年を迎えております。事業の内容は、ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の仕入と販売になります。



こちらは当社の沿革です。

1983年に当時の丸善石油、現在のコスモ石油の子会社として設立された後、2000年にMBOによって石油会社から独立して、2005年に上場いたしました。その後、上場で得た資金を活用しまして、製造機能を強化しているといった流れで進んできております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

コスモ・バイオの事業概況マトリックス



こちらが当社の事業概要のマトリックスになります。

左と右で商社機能と製造機能、上と下で受託サービスと商品・製品の販売というふうにマトリックスを分けると、現在の主力の事業は、左の下側の仕入販売というところが主力です。その主力を中心に、上と右の受託サービスを増やし、第2の柱ということで自社における製造の拡充に力を入れて、右の上のほうに向けて拡大をしていきたいという形で進めております。

それと同時に、現在の国内における研究用試薬の販売だけではなくて、輸出、グローバルな方向への市場の拡充と、あとは原料供給といったような新たな市場への参入を方向性として考えて、事業を進めております。

サポート

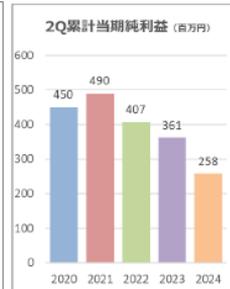
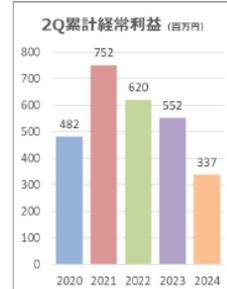
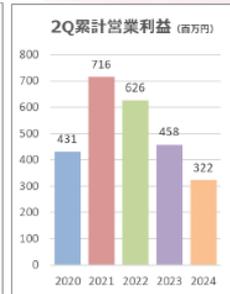
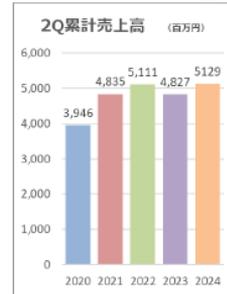
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結業績ハイライト

連 結	売上高	5,129百万円	(前年同期比 6.2%増)
	営業利益	322百万円	(前年同期比 29.6%減)
	経常利益	337百万円	(前年同期比 38.9%減)
	親会社株主に帰属する 中間純利益	258百万円	(前年同期比 28.5%減)

主な要因

- ・試薬販売は好調、受託サービス、消耗品は復調
- ・為替レートは、前2Q実績が135円のところ、当2Q実績は149円となり、利益減に影響



第2四半期の業績についての説明になります。

ハイライトはここにお示ししたとおりです。

売上高は51億2,900万円ということで、対前年比で6.2%の増となっております。営業利益につきましては3億2,200万円ということで、前年同期比マイナス29.6%。経常利益につきましては3億3,700万円で、前期の比較で38.9%減。中間の純利益が2億5,800万円、対前期比でマイナス28.5%です。

売上につきまして、右のほうに棒グラフがありますけれども、売上については順調に推移いたしまして、2022年のコロナ禍で売上が良かったときを、若干ですけれども上回ることができました。

販売が順調な要因は、試薬販売が好調でして、また、2023年に落ち込みました受託サービスや消耗品の売上が復調してきたということが主な要因で、売上が増加いたしました。

ただ、為替の影響を受けますので、利益につきましては足元の急激な円安が影響しまして、減という形になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結損益計算書

(金額単位：百万円)

	2023年	2024年2Q累計		予想比 増減	前年同期比 増減	
	2Q累計	予想	実績			
売上高	4,827	5,000	5,129	2.6%	6.2%	← 試薬販売が好調、受託サービス、消耗品等が復調
売上総利益	1,765	-	1,712	-	△3.0%	← 粗利率は36.6%から33.4%へ、14円円安による為替影響大
販管費	1,306	-	1,389	-	6.4%	← 人件費、一般管理費増
営業利益	458	260	322	24.2%	△29.6%	
経常利益	552	290	337	16.3%	△38.9%	
親会社株主に帰属する 中間純利益	361	200	258	29.2%	△28.5%	

こちらが連結の損益計算書です。

一番左側が2023年の実績でして、その隣が予想、そしてその右が実績という形で並んでおります。

対前年、対予想についての増減比がその横に書いてありますけれども、対予想に対しては増収増益、対前年に対しては増収減益という形になっています。

先ほどご説明しましたが、売上増は先ほどの要因で良かったということと、やはり為替の影響が一番大きくて、売上総利益率が、前年36.6%から33.4%ということで3%程度下がってしまったことが大きく響いてしまいました。

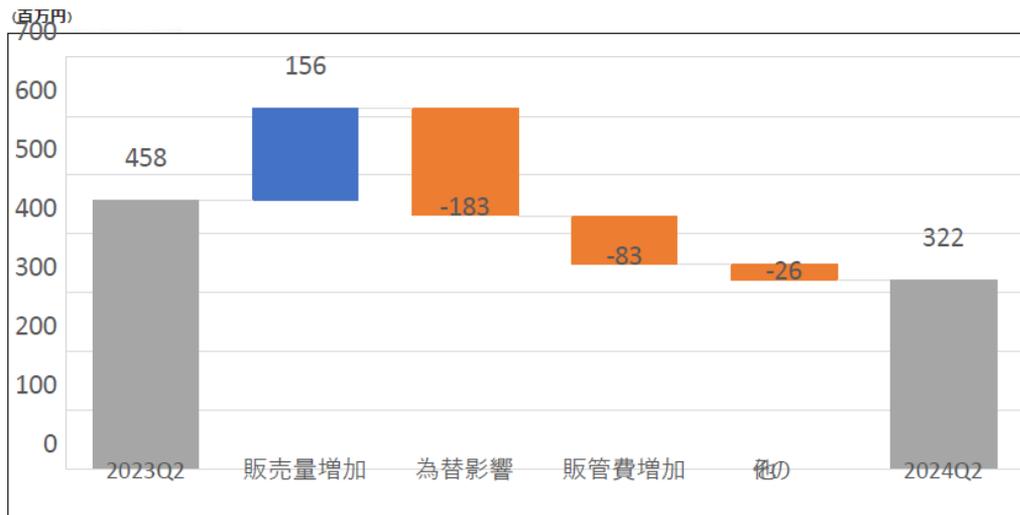
もう一つが販管費です。人件費の増や一般管理費の増などで、販管費も増えてしまったということで、対前年に比べると減ってしまったという形になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結営業利益の増減分析

前年同期比での連結営業利益の増減要因



こちらが連結の営業利益の増減分析になります。

2023年のQ2が4億5,800万に対して、売上の増加によって1億5,600万増えたのですが、為替の影響がそれを上回るような形になり、さらに販管費が増加したということで、減益になってしまったということです。

連結貸借対照表

	(単位: 百万円)		
	2023年12月末	2024年6月末	増減額
資産合計	10,872	11,739	866
流動資産計	7,102	7,179	77
固定資産計	3,770	4,559	789
負債純資産合計	10,872	11,739	866
負債計	1,846	1,954	107
純資産計	9,026	9,785	759
自己資本比率	77.7%	78.3%	

現金及び預金 +198
売上債権 △160

投資その他の資産:
投資有価証券 +748

こちらが連結の貸借対照表です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ここは記載のとおりですけれども、1点だけお伝えしておくのと、変動として大きかったのが固定資産のところ、7億8,900万円の増となっていますけれども、こちらは、最近の株価上昇の影響で評価額が上がったこと、そして当社の出資先で取引先でもありますコージンバイオという会社が今年の4月に上場したということが主な要因で、その評価額が上がったということで全体を押し上げた、というのが今期の特徴になっております。

連結キャッシュ・フロー計算書				人と科学の未来を拓く コスモバイオ株式会社	
				(単位：百万円)	
	2023年 2Q累計実績	2024年 2Q累計実績	増減額		
営業活動による キャッシュ・フロー	848	310	△538	利益減、売上計上が前年に 比へ2Qに後ずれ（ユー ザー研究費予算の繰り越し 使用）等	
投資活動による キャッシュ・フロー	△33	△45	△12		
財務活動による キャッシュ・フロー	△119	△96	22		
現金及び現金同等物の増加額	715	198	△516		
現金及び現金同等物期末残高	3,752	3,025	△727		

連結のキャッシュ・フロー計算書は、ここに記載のとおりです。特段コメントすることはございません。

通期の業績と配当予想、3ヶ年の計画についてのご説明になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2024年度事業環境

当社を取巻く環境

為替環境

コスモ・バイオグループ

エンドユーザー
研究費動向

競合会社

当社を取り巻く事業環境は、当社の業績に大きく影響を与えるものとして、ここに書いてある三つのものがあります。

一つは為替の環境、エンドユーザーの研究費の動向、そして競合会社との競争の状況。これらが事業に大きく影響を与えます。

為替環境



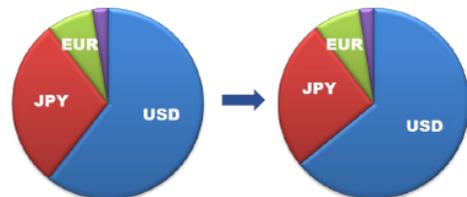
- ・為替変動により利益に影響 (円安では仕入原価・コスト高)
- ・為替予約により為替変動リスクを軽減させているものの、急激な円安傾向が継続中

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2021年	2022年	2023年	2024年上期
108円	128円	140円	149円

【2022年通貨別仕入】

【2023年通貨別仕入】



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

まず為替の環境ですけれども、2023年は平均140円だったところ、当期の上期におきましては平均149円ということで、足元では円安が非常に進んだということです。

およそ7割ぐらいが外貨による取引ですので、どうしても為替の影響を受けます。為替予約などを使って為替変動リスクを減少させているのですけれども、なかなか追いつくことができなかったということです。

エンドユーザーの研究費動向

大学・公的研究機関研究費動向

政府予算の増額があるものの、2022年以降の光熱費の上昇が研究費を圧迫している傾向は継続。
予算の繰り越し使用が浸透しつつある。
当社においては研究者への積極訪問により売り上げ拡大を目指す。

企業研究費動向

コロナ後に研究者の活動が回復し、商品・サービスの需要も回復。国内においては食品・化粧品関連企業の研究活動が活発化している。
当社においてはコロナ禍で新サービスの紹介機会が減った結果、2023年度は苦戦したが、コロナ後の活動再開により、2024年度は顧客動向は復調。

年度	予算額 (億円)
H10	1,179
H11	1,389
H12	1,419
H13	1,580
H14	1,703
H15	1,785
H16	1,830
H17	1,880
H18	1,895
H19	1,913
H20	1,932
H21	1,970
H22	2,000
H23	2,633
H24	2,566
H25	2,381
H26	2,276
H27	2,273
H28	2,273
H29	2,284
H30	2,326
R1	2,372
R2	2,374
R3	2,487
R4	2,533
R5	3,001

出典：文部科学省HP

こちらがエンドユーザーの研究費の動向になります。

当社では、エンドユーザーにつきましては、大学などの公的研究機関と、企業という形で分類しているのですけれども、まず大学やアカデミアについては、政府の研究予算の影響が大きいです。

科研費のグラフが横に付いているのですけれども、見ていただければわかりますように、政府の予算の増額がありました。とはいうものの、2022年以降、光熱費などの上昇、あるいは人件費の増加、そして、コロナが収束したことによって大学等の研究者が学会に行くなどの活動経費といったものも増えてきたという現状があって、競争環境としては非常に厳しい状況が継続しております。

ただ、最近の傾向として、予算の繰り越しの使用がだんだん浸透しつつあり、今まで1-3に非常に比重が大きかったのですけれども、それが少し平準化するという傾向がありました。

次は、企業の研究費の動向ですけれども、こちらは会社によってまちまちなので、なかなか一概に言えないのですけれども、全般的に見ると、コロナ後の研究者の活動が回復いたしまして、商品・サービスの需要も回復してきました。

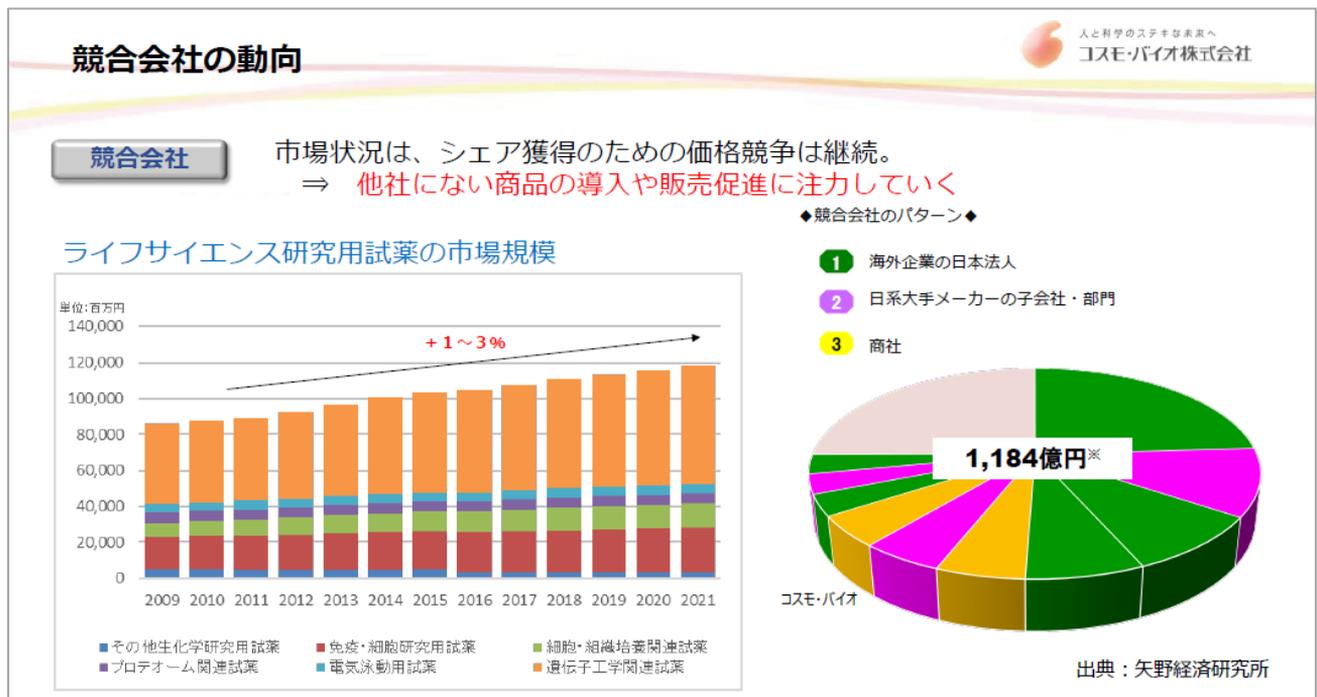
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

8

国内においては、食品や化粧品関連企業の研究活動も活発化しております。それに加えて、ベンチャー企業の活動も活発化しておりまして、全体の売上を押し上げてくれているといった傾向があります。

サービスのところで、昨年 2023 年、受託サービスの売上が非常に落ちたということがあったのですが、だんだん活動を再開して、当社のほうの活動もまた再開したということで、2024 年は復調傾向にございます。



もう一つが、競合会社の動向になります。

ライフサイエンスの研究用試薬の市場規模は、だいたい年 1%から 3%程度の増加傾向を示しております。全体としては、今おおよそ 1,184 億円というふうに、矢野経済さんのほうでは見積もっておられますけれども、その中で、当社コスモ・バイオは、黄色いところで示したような、だいたい 5%前後のシェアを持っております。

各社の名前は書いておりませんが、色で分類しておりまして、他の競合会社としては、海外企業の日本法人さん、あとは日本のメーカーの子会社があり、海外法人としてはサーモフィッシャーさん、日本の国内の子会社としては富士フィルム和光純薬さんなどといったところが競合会社になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

したがって、どうしてもこれぐらいの成長率なので、シェア獲得のための価格競争はやはり引き続き継続しております、できるだけ他社にない商品の導入や販売促進に注力をしていくという方針は変わっておりません。

通期業績見通し				
(単位：百万円)				
	23/12月期 通期実績	24/12月期 通期予想	対前年 同期比	(参考) 24/12月期 2Q実績
売上高	9,340	9,800	4.9%	5,129
営業利益	519	390	△25.0%	322
経常利益	653	450	△31.1%	337
親会社株主に帰属する 当期純利益	442	310	△30.0%	258
平均為替レート	23/12月期 実績	24/12月期 上期実績	24/12月期 下期予想	
円/USドル	140円	149円	150円	

こちらが通期の見通しです。

為替の動向など、今、非常に不安定な状態になっていますので、ここから先どうなるかわかりません。したがって、売上等々は順調に推移しているのですが、現時点では2月に開示しました予想を変更しておりません。下期の為替についても、150円で計算をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

配当について

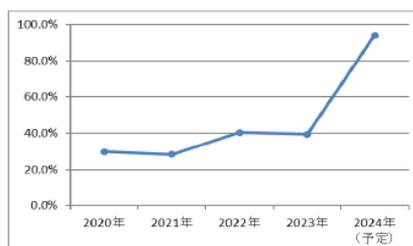
	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2022年 12月期	16円	20円	36円
2023年 12月期	14円	16円	30円
2024年 12月期	14円	36円 (予定)	50円 (予定)

配当方針の見直し (2024年8月5日取締役会決議)

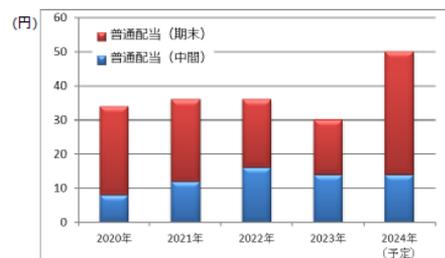
配当性向30%~40%という従来の配当方針を変更し、株主資本配当率 (DoE) 3.5%と配当性向60%のいずれか高いほうを基準とした配当を実施することとしました。

詳細は、
第二部「企業価値向上への取り組み説明」にてご説明いたします。

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



こちらが配当についてです。

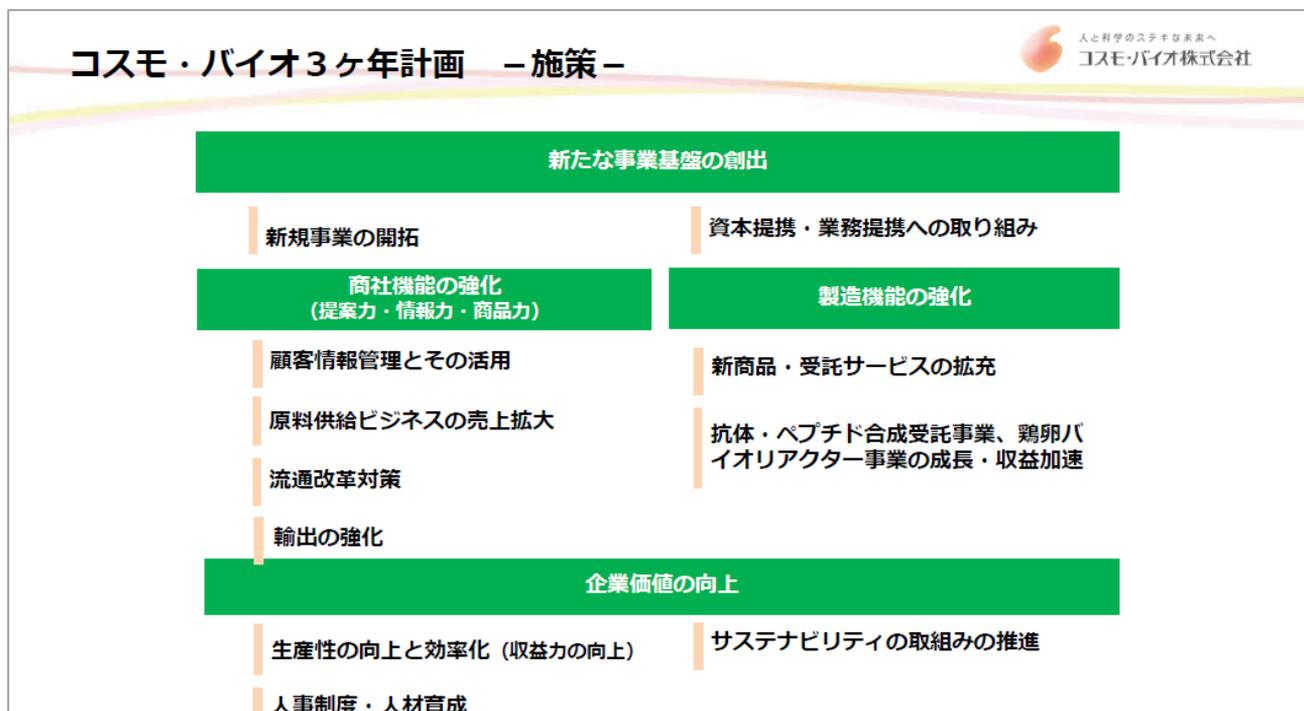
詳細については、第二部のほうの、企業価値向上への取り組みの説明においてご説明いたしますけれども、昨日配当方針の見直しを行いました。

今までは、そのグラフのところにあるのでわかると思うのですが、配当性向30~40%という配当方針だったので、こちらを変更しまして、株主資本配当率 (DoE) を導入いたしまして、そこを3.5%と定めて、この辺りを最低ラインとして、配当性向60%と、このどちらかの高いほうを、ということで方針を変更いたしました。

その結果、当初予定していた下期の配当につきましては、16円から20円増配して36円とし、年間の合計が50円ということで、こちら昨日開示したとおり、増配をすることになりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



当社は、中期経営計画における3ヶ年計画を実施しているわけですが、基本的な取り組みといたしましては、主にここに書いてあることに取り組んでおります。

特に新規事業の開拓への取り組みとして、札幌事業所の組織を変更しまして、一部を事業開発部に組み込むことで、新たなアイデアをいち早く事業化するための組織改編を行っております。

また、現在コスモ・バイオ USA、USAの子会社に集約している輸出事業を、国内からマーケティングの部分でサポートするための組織を立ち上げまして、子会社の販売体制の見直しを行い、輸出の強化を推進しております。

製造機能におきましては、ペプチド合成受託事業において生産設備を増強したり、鶏卵バイオリアクター事業においては、今後の本格的な事業展開に向け、鶏卵の生産設備のための建設に向けた準備に取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

3ヶ年計画 – 進捗状況の一例 –

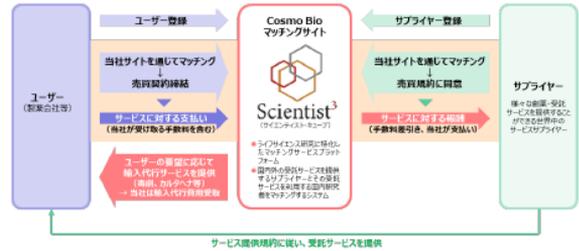
商社機能の強化 (提案力・情報力・商品力)

- エクソソーム関連ツールの充実化
 - 三洋化成工業社が開発したエクソソーム（細胞外小胞）精製キット『EXORPTION®』を販売開始（5月）



- 新規受託サービス導入
 - メディアシーク社のブレインテックトレーニングサービスを販売開始（3月）

- 受託サービスマッチングサイト『Scientist³』（サイエンティストキューブ）の立ち上げ
 - サプライヤー登録に向けた作業中



その他、商社機能の強化といたしまして、エクソソーム関連ツールの充実化です。こちらは、三洋化成さんが開発したエクソソームの精製キットの販売を開始しています。

あとは新規の受託サービスとしまして、ここに記載のメディアシーク社のブレインテックトレーニングサービスの販売を開始しております。

もう一つ、こちらは進捗が少し遅れてしまっているのですが、受託サービスのマッチングサイトであります「Scientist³」（サイエンティストキューブ）の立ち上げに向けて、まずは供給できるサプライヤーが充実してないとなかなかユーザーさんも集まってもらえないので、こちらの登録に向けた準備を進めているような段階になっております。

以上が、中間の決算の説明になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com